

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

美郷町プロジェクト「県南地域における多様な交流推進による美郷活性化プロジェクト」における事後評価調書

1 プロジェクトの目的

滞在型・滞留型拠点施設の強化を行い、スポーツ合宿地としての利活用を促進するとともに、歴史文化資源に関連した体験活動を受け入れる体制を作ること、県南地域の中心として、広域的な交流人口拡大による美郷町の活性化を図る。

また、地域特有の資源である清水・ラベンダー園などの豊かな自然環境や後三年合戦関連遺跡・わら文化等の歴史文化資源の活用及びスポーツ大会創設や合宿誘致等のスポーツ交流を基軸とした集客プログラムを充実させることで、交流人口の増加につなげ、滞留型・滞在型交流の強化及び創出に取り組んでいく。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	美郷町 総事業費 (千円) A	交付金 (千円)	県事業・ 協働事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A+B
H24.12.25	H25~H28	938,418 (782,070)	200,000	5,889 (17,972)	944,307 (800,042)

※ () 内は計画値。

【プロジェクトを構成する事業】

○美郷町実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	実施年度
宿泊交流施設整備事業	610,128	135,000	H25~H27
歴史民俗資料展示施設整備事業	179,593	50,000	H25~H27
屋内球技施設整備事業	54,464	15,000	H25~H26
施設運営事業	74,969	—	H27~H28
集客プログラムの企画・運営	19,264	—	H25~H28
計	938,418	200,000	

○県関連事業

事業名	総事業費 (千円)	実施年度
あきた未来づくりプロジェクト支援事業	3,174	H27~H28
滞在型観光に向けたツアー商品の造成	323	H25~H28
地域を売り込む物産展等の開催	2,392	H25~H28
計	5,889	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

(単位：人)

指標名	基準値 (23年度)	目標値 (28年度)	実績値 (28年度)	達成率 (%)
宿泊交流施設の宿泊数	880	2,270	2,427	107%
歴史民俗資料展示施設の利用者数	631	4,000	2,943	74%
屋内球技施設の利用者数	—	6,330	4,674	74%
主要観光地・施設の来客数※	309,900	333,500	307,932	92%

※主要観光地・施設の来客数のみ1月～12月集計。

4 経済波及効果分析等

本プロジェクトにおいて実施した各種実施事業における経済波及効果は、①ハード事業費支出による経済波及効果(13億5,700万円)、②ソフト事業費支出による経済波及効果(400万円)、③来場者の消費支出による経済波及効果(△1,100万円)を合わせると、合計13億5,000万円であったと推測される。

(単位：百万円)

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
①ハード事業費支出による経済波及効果	877	278	203	1,357
②ソフト事業費支出による経済波及効果	3	1	1	4
③来場者の消費支出による経済波及効果	△7	△3	△1	△11
合計	873	276	203	1,350

※端数処理の関係で、総合効果とその内訳の合計が一致しない場合がある。

5 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：国際教養大学 アジア地域研究連携機構 機構長 熊谷 嘉隆 氏)

(1) 歴史民俗資料館について

資料の展示の仕方について、例えば、地域の歴史、地理とリンクさせるなど、ストーリーがわかるような工夫が必要である。また、少ない経費で効果を発揮できることから、町に関する音楽・映像等の展示やQRコードの整備等についても導入を検討してはどうか。入館料については、にぎわいを創出することや地域について知ってもらうことが施設の目的だと考えれば、運営上必要不可欠なものでない限り、入館料を取る必要はないと考える。

(2) バドミントンを通じたタイとの交流について

タイで日本ブームが起きていることやSNSが浸透していることから、観光客増加の大きなチャンスになる。例えば、タイの著名なバドミントン選手がSNSを使って町についての情報を発信した場合、安価かつ重要な広告塔になるだろう。

タイ観光客のインバウンド受入に関する整備については、タイ人の嗜好や文化を理解したうえで取り組む必要がある。大学にはタイ人講師や留学生等も多く在籍

しているので、ガイドや翻訳、タイ人から見て魅力あるスポットを発見するワークショップの開催など、様々な協力及び支援ができるだろう。

観光スポットについては、タイは仏教国であるため、寺やそこに住むお坊さんの生活に興味を持つ観光客は多く、寺町通りやその周辺の清水等は高い訴求力を持つと考えられる。また、実際に美郷町に来てもらうためには、タイから美郷町まで移動手段や経路についても情報発信する必要がある。そのためには移動、宿泊、観光施設等をパック化することが望ましい。

6 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画した事業を概ね実施することができ、施設環境の充実や集客プログラムを通じて、交流人口を拡大し地域の活性化を図ることができたと考える。

特に2020東京オリンピックの事前合宿地としてタイのバドミントン協会と基本合意が交わされたことは、本プロジェクトで整備された宿泊交流館「ワクアス」や既存の総合体育館「リリオス」に代表される町のスポーツ施設環境が合宿地として高く評価された結果であり、本プロジェクトの大きな成果と捉えられる。

歴史民俗資料展示施設の利用者数については、目標達成には至らなかったが、集客プログラムとしてわら細工の展示会や講座を開催し、わら文化の魅力の発信及び集客を図っており、平成29年2月には町内外の有志による「美郷わらの会」が設立されたことから、更なる利用促進が期待されている。

7 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) 独自のエコツーリズムの構築

アウトドアスポーツを軸として、町ならではのテーマやストーリーで複数の地域資源を繋いだ独自のエコツーリズムを構築することで、町全体の魅力を発信し、観光客への訴求力を高める。

そのため、平成29年6月から株式会社ネイチュアエンタープライズにエコツーリズムに係る資源活用計画の作成を委託しており、今後はその計画に基づいたエコツーリズムを推進し、交流人口の拡大に取り組んでいく。

(2) バドミントンを縁としたタイとの交流の促進

タイでは日本文化の人気の高いことや仏教国であることから、寺町通りや周辺の清水等の観光資源が大きな訴求力を持ち得る。そのため、バドミントン選手との交流によるワクアスやリリオスの利用を促進するほか、タイからの観光客をターゲットにしたインバウンドの受入態勢づくりを進める。

(3) スポーツ合宿・体験活動等の誘致

美郷町宿泊交流館合宿応援事業の周知と関係団体への働きかけを継続し、合宿の誘致を進めるとともに、清水・ラベンダーめぐりや農作業体験等の体験活動の拠点としての利活用を促進していく。

(4) 歴史文化資源の魅力の発信

歴史文化資源である後三年合戦関連遺跡・わら文化が持つ魅力について、資料館の展示内容の強化や歴史・わら文化に関する講座による情報発信を通じて集客につなげる。

【プロジェクトチーム構成員】

美郷町	企画財政課、商工観光交流課、農政課、生涯学習課
秋田県	観光振興課、スポーツ振興課、道路課、教育庁生涯学習課文化財保護室、仙北地域振興局、地域の元気創造課（幹事課兼事務局）